

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年10月）

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は、第35週以降減少し続けています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	10件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	12件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O157が6件、O不明4件(うち2件が無症状病原体保有者)報告がありました。
- 2 レジオネラ症：肺炎型4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢：腸管アメーバ症1件の報告がありました。同性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：B群の報告が1件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症：70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴3回有)ありました。
- 9 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。男性10件、女性2件で、うち11件は性的接触(異性間7件、同性間2件、詳細不明2件)による感染が推定されています。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第40週～第42週に横浜市から報道発表のありました症例は423件でした。

#### ◆横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

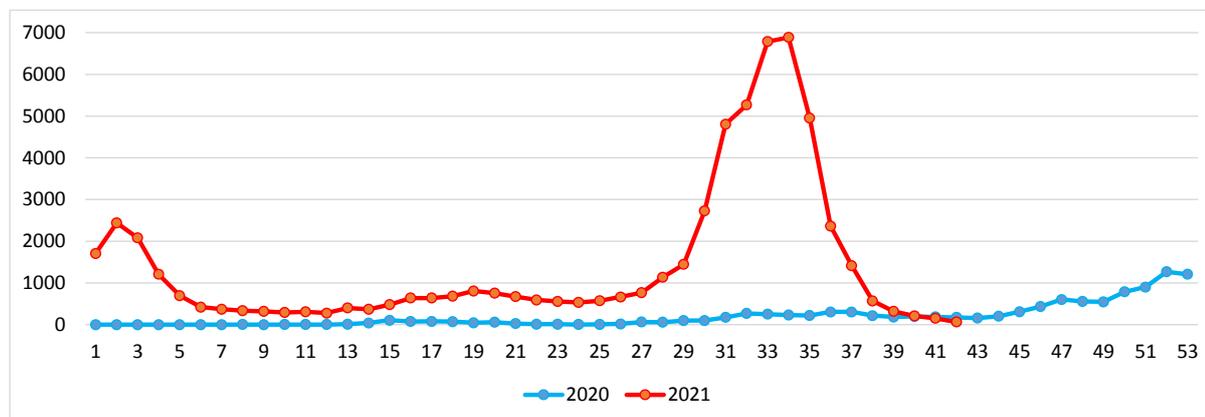
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

#### ◆変異株の検出状況：神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(10月26日版)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r0286904.html>

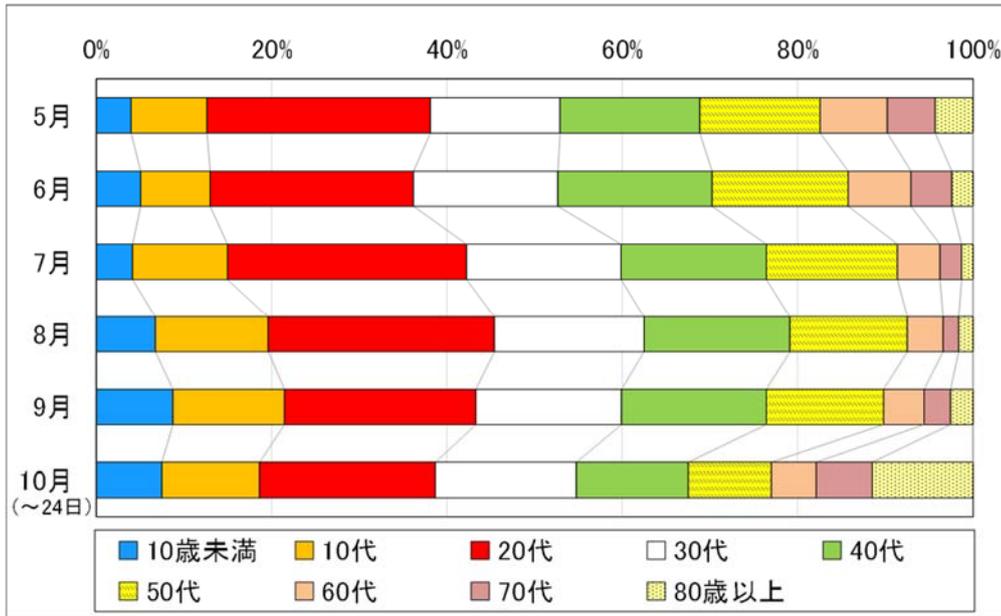
## 1 報告数の推移

[人]

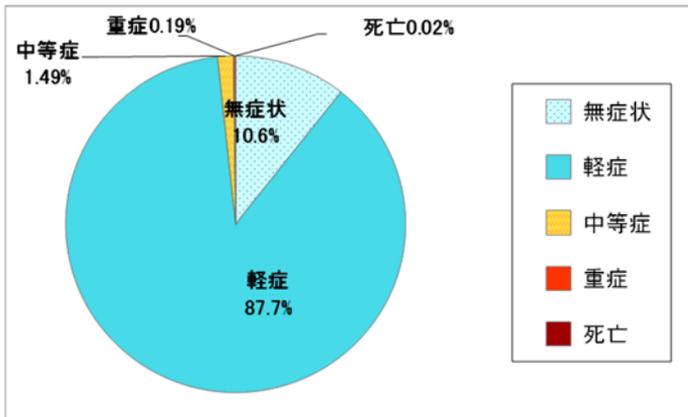


[週]

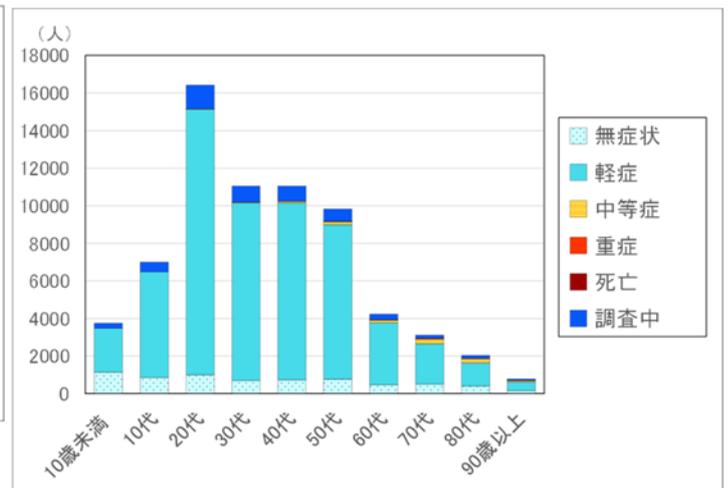
## 2 年齢別割合



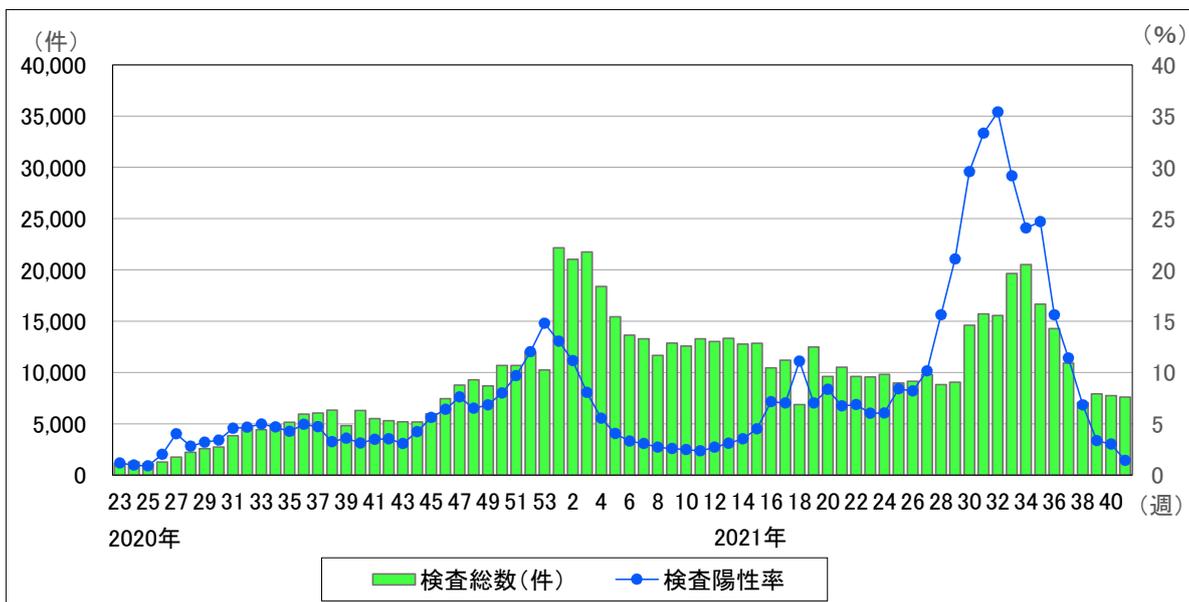
## 3 陽性確定時の症状の割合



## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (第41週まで)

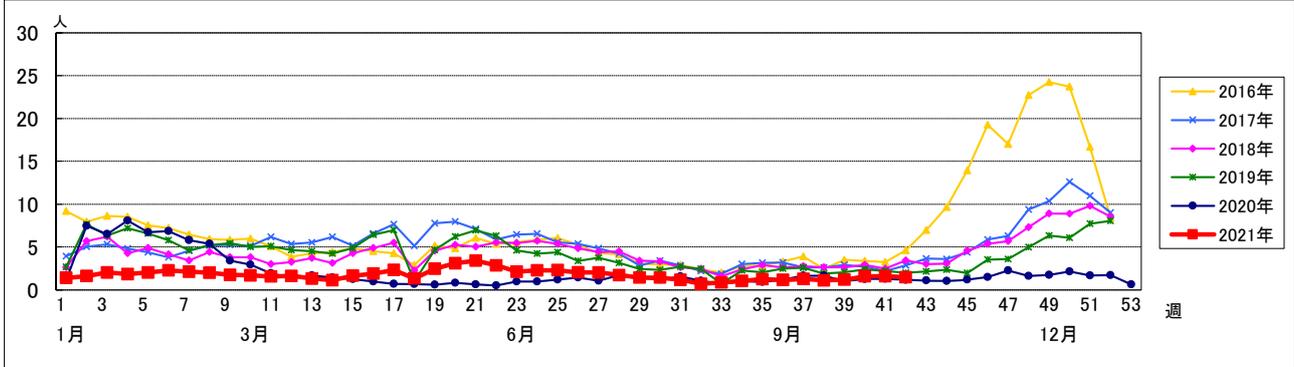


※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

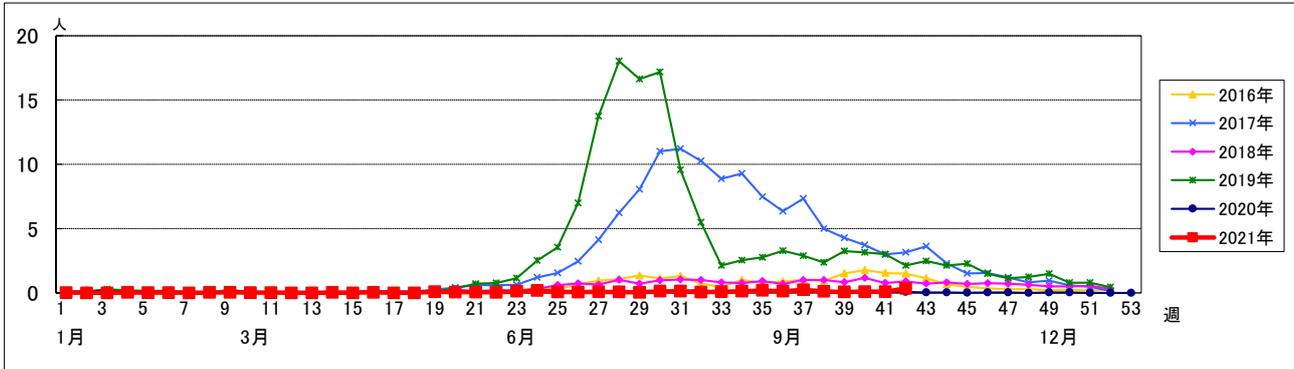
報告週対応表	
第40週	10月 4日～10月10日
第41週	10月11日～10月17日
第42週	10月18日～10月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第42週は1.46でした。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第41週 0.09、第42週 0.34 でした。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:25件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:17件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.66	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

10月期(2021年第39週～第42週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点2件、基幹定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

11月5日現在、表に示したパラインフルエンザウイルス1型1件、2型2件、4型1件、アデノウイルス2型1件、コクサッキーウイルス A6型1件、ライノウイルス1件の遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第39週～第42週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
パラインフルエンザウイルス 1型		- 1
パラインフルエンザウイルス 2型		- 2
パラインフルエンザウイルス 4型	- 1	
アデノウイルス 2型	- 1	
コクサッキーウイルス A6型	- 1	
ライノウイルス	- 1	
合 計	- 4	- 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

10月期(2021年第39週～第42週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、サルモネラ属菌1件、レジオネラ属菌1件、ウエルシュ菌1件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、黄色ブドウ球菌2件、アクチノマイセス属菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌9件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ2件の検査依頼がありました。「小児サーベイランス」の小児科定点からの検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第39週～第42週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Enteritidis (1)	
	レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
	ウエルシュ菌	1	<i>Clostridium perfringens</i> (1)	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Esherichia coli</i> (2)	
	黄色ブドウ球菌	2	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	
	アクチノマイセス属菌	1	<i>Actinomyces neuii</i> (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus gallinarum</i> (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	9	O157 : H7 VT1 VT2 (4)、O157 : H7 VT2 (1)、O157 : H- VT1 VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (1)、OUT : H+ VT1 (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Esherichia coli</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌 (1) B群溶血性レンサ球菌 Ib型 (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24型 (1)	
	分離同定	材料	項目	検体数
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】